

Disease Duration and Severity Impacts on Long-term Cardiovascular Events in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-20 キーワード: 作成者: 増田, 洋史 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001541

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1478 号

Disease Duration and Severity Impacts on Long-term Cardiovascular Events in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis

(日本人関節リウマチ患者における罹病期間と重症度が与える長期心血管イベントへの影響)

増田 洋史 (ますだ ひろし)

博士 (医学)

論文内容の要旨

欧米諸国の報告より関節リウマチは心血管疾患の合併により予後を悪化させることが示されている。しかし、本邦においては関節リウマチと心血管疾患の関連性について十分に検討されていない。本研究の目的として本邦での関節リウマチと心血管疾患の関連性を明らかにするために、1990年から2000年までに順天堂大学付属医院に入院した関節リウマチ患者571名を対象に後ろ向き研究を行った。心血管イベントを心血管死、急性冠症候群、症候性脳卒中、心不全と定義しエンドポイントとした。平均観察期間は 11.7 ± 5.8 年であった。総死亡率は約7.5%、約11.0%の患者が心血管イベントを発症し、脳卒中は約3.6千人年、急性冠症候群2.5千人年の発症率であった。イベント群と非イベント群で関節リウマチの平均罹病期間を比較するとイベント群で有意に長かった。 $(15.0 \pm 12.7$ vs. 10.8 ± 9.7 years, $P = 0.01)$ 。リウマチによる身体障害度はイベント群で重症である傾向があった。罹病期間より3群に分け比較すると、より長い罹病期間のリウマチ患者においては有意に高いイベント発症率であった($P = 0.033$)。コックス比例ハザード分析から、長い関節リウマチの罹病期間は心血管疾患の独立した危険因子であると考えられた(HR 1.64, 95% CI 1.15-2.40, $P = 0.007$)。本研究により日本人における関節リウマチ患者において冠動脈危険因子が少ないにもかかわらず、比較的高い心血管疾患の発症が示された。特に関節リウマチの罹病期間は独立した心血管危険因子であることが示唆された。